

第5回先進インスリン療法研究会

日時:2005年8月20日(土)10:00~16:30

会場:北海道厚生年金会館ウェルシティ札幌

URL:<http://www.5thinsulin.com>

研究会
テーマ

21世紀のインスリン治療戦略

—インスリン治療の新たなる飛躍を目指して—

プログラム概要

研究会

1 教育講演

- 1 血糖自己測定の進歩とインスリン治療
- 2 インスリン治療と糖尿病療養指導士の役割

2 ランチオンセミナー

3 一般演題

4 シンポジウム:

インスリン製剤の進歩と治療法の新しい展開

- 1 超速効型インスリンアナログ
- 2 持効型インスリンアナログ
- 3 三相性インスリンアナログ
- 4 インスリンポンプとインスリン持続注入療法
- 5 新しい薬剤や器機への期待

5 特別講演

展示コーナー

インスリン治療関連デバイスの展示を併催致します。

参加会費

医師 5,000円

医師以外 2,000円

※本研究会の対象は医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師他、新しいインスリン製剤、インスリン注入システム、血糖モニタリングシステムなど、先進的なインスリン治療に関心のあるコメディカルスタッフおよび患者さん

※本研究会は現在「日本糖尿病療養指導士 認定更新のための研修会」として認定を申請しております。本制度により、(第2群)(糖尿病療養指導研修単位)の取得が認められます。

演題募集

締切:平成17年5月31日(火)必着

募集対象 インスリン治療に携わっている糖尿病専門医、治療に関心のある医師、糖尿病療養指導士、コメディカルスタッフ、関連企業およびインスリン治療を行っている患者さん

応募方法 ホームページより応募フォームをダウンロードできます。演題名、氏名、所属、目的、方法、結論を800字以内(図表なし)にまとめて、下記運営事務局までメールにてお送り下さい。

採否通知 世話人会で査読のうえ、採否決定を行います。
なお、応募原稿はご返却致しません。
※看護師をはじめとするコメディカルスタッフによる演題も歓迎致します。

運営事務局

第5回先進インスリン療法研究会 運営事務局
(株)インターグループ内 担当:内田
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1 インターGビル
tel:06-6372-9345 fax:06-6376-2362
E-MAIL:secret-2@intergroup.co.jp

主催 先進インスリン療法研究会

後援 (社)日本糖尿病学会

先進インスリン療法研究会

当番世話人

柳澤 克之(市立札幌病院 内分泌代謝内科)

代表世話人

小林 哲郎(山梨大学医学部 第三内科)

世話人

- 雨宮 伸(山梨大学医学部 小児科学講座)
石井 均(天理よろづ相談所病院 内分泌内科)
鴨井 久司(長岡赤十字病院 糖尿病内分泌代謝センター)
川村 智行(大阪市立大学大学院 発達小児医学教室)
津田 晶子(木戸病院 内科)
豊田 長康(三重大学医学部 産婦人科)
難波 光義(兵庫医科大学 総合内科学糖尿病科)
丸山 太郎(埼玉社会保険病院 内科)
山田研太郎(久留米大学医学部 内分泌代謝内科)

顧問

野中 共平(白石共立病院 名誉院長)

2005年8月20日(土)

北海道厚生年金会館ウェルシティ札幌

研究会▶瑞雪の間 10:00~16:55

ランチョンセミナー▶瑞雪の間 12:00~13:00

展示▶瑞雪の間ホワイエ 10:00~16:55

受付は9:30より瑞雪の間ホワイエにて行います。

参加申込方法

1. ホームページの「参加申込み」よりお申し込み下さい。
2. メール、FAXでもお申し込み頂けます。
3. **2005年8月17日(水)**までにお申し込み下さい。
4. 参加の可否は、追って運営事務局よりご連絡申し上げます。

日本糖尿病療養指導士の認定更新研修単位について

本研究会は現在「日本糖尿病療養指導士の認定更新のための研修会」として認定を申請しております。本制度により、<第2群>(日本糖尿病療養指導研修単位)の取得が認められます。当日、受付にて参加証をお渡し致します。

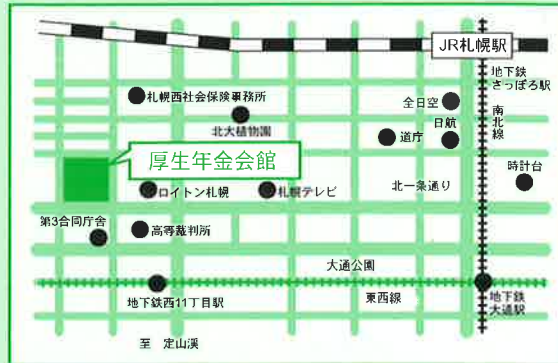
先進インスリン療法研究会世話人

- 当番世話人
柳澤 克之(市立札幌病院 内分泌代謝内科)
- 代表世話人
小林 哲郎(山梨大学医学部 第三内科)
- 世話人
雨宮 伸(山梨大学医学部 小児科学講座)
石井 均(天理よろづ相談所病院 内分泌内科)
鴨井 久司(長岡赤十字病院 糖尿病内分泌代謝センター)
川村 智行(大阪市立大学大学院 発達小児医学教室)
津田 晶子(木戸病院 内科)
豊田 長康(三重大学医学部 産婦人科)
難波 光義(兵庫医科大学 内科学糖尿病科)
丸山 太郎(埼玉社会保険病院 内科)
山田研太郎(久留米大学医学部 内分泌代謝内科)
- 顧問
野中 共平(白石共立病院 名誉院長)

お問い合わせ先——運営事務局

第5回先進インスリン療法研究会運営事務局
(株)インターグループ内 担当:内田
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1
E-mail:secret-2@intergroup.co.jp
Tel:06-6372-9345 Fax:06-6376-2362

会場までのアクセス



■電車:JR函館本線札幌駅から小樽方面行きバス7分
厚生年金会館前下車

■地下鉄:南北線「さっぽろ駅」から「大通駅」にて乗り換え
東西線「西11丁目駅」下車、徒歩3分

会場施設ご案内

ウェルシティ札幌 3階



第5回 先進インスリン療法研究会

21世紀のインスリン治療戦略
—インスリン治療の新たな飛躍を目指して—

参加のご案内

開催日▶2005年8月20日(土)

会場▶北海道厚生年金会館
ウェルシティ札幌

〒060-0001
北海道札幌市中央区北1条西12丁目
TEL:011-231-9555 FAX:011-272-7752

H P▶<http://www.5thinsulin.com>

主催▶先進インスリン療法研究会

後援▶(社)日本糖尿病学会

参加会費

医師・メーカー	5,000円
コメディカル	2,000円
患者様	無料

本研究会は現在「日本糖尿病療養指導士の認定更新のための研修会」として認定を申請しております。本制度により、<第2群>(日本糖尿病療養指導研修単位)の取得が認められます。

開催にあたって

近年、よりよい血糖コントロールを達成するための手段として、多くの新しいインスリンやペン注射器、ポンプの開発が成されています。また、DCCTやKumamoto Study、UKPDSなどの多くの大規模臨床試験により血糖コントロールを可能な限り正常化することが合併症を予防する切り札となることが示されています。そのため強化インスリン療法は1型糖尿病患者や一部の2型糖尿病患者にとっても標準的な治療法となりつつあり、それをサポートするための血糖測定機器などの開発も急速に進んでおります。

とくに新しいインスリンやインスリンアナログについては、発売後数年がたち、当初の研究成果と比べ、徐々にその特性や使用方法のノウハウが蓄積されつつあり、またそれとともにチームとしてどのように患者様に向き合い、療養をサポートすべきかという方向性が見えつつある状況となっています。

このような状況をふまえ、今回は教育講演として上記に述べたようなインスリン治療法の進歩や変化について、またその中のCDEの役割をテーマとした講演を2題、ランチョンセミナーには世界でも糖尿病メンタルケアの第一人者である、ジョスリン糖尿病センターのAlan Jacobson先生の御講演、特別講演としてつい先頃行われた岸ラ氏島移植の現場にいらっしやる京大病院の山田祐一郎先生にホットな移植の話題の御講演をお願い致しました。また、一般演題も昨年よりさらに多くのご応募をいただき大変感謝致しております。本研究会においてはインスリンポンプの使用法に始まり、インスリン療法についてのさまざまな情報を交換し合い、また糖尿病へのチーム医療を充実させていく上での一助となるような場を提供していきたく準備を進めております。

ぜひ皆様にはクールな札幌でホットなディスカッションをしていただくとともに、夏の北海道をエンジョイしていただければ幸いです。多くの方の参加をお待ちしております。



第5回先進インスリン療法研究会当番世話人
市立札幌病院 内分泌代謝内科
柳澤 克之

第5回先進インスリン療法研究会プログラム

「21世紀のインスリン治療戦略—インスリン治療の新たなる飛躍を目指して—」

10:00~10:05 開会の辞

柳澤 克之 (市立札幌病院 内分泌代謝内科)

I. 教育講演

10:05~12:00

座長 難波 光義 (兵庫医科大学 内科学糖尿病科)

「インスリン製剤の進歩と治療法の新しい展開」

柳澤 克之 (市立札幌病院 内分泌代謝内科)

「インスリン治療と糖尿病療養指導士の役割」

久保田睦子 (北海道大学病院 看護部)

II. ランチョンセミナー (日本イーライリリー (株) 共催)

12:00~13:00

座長 石井 均 (天理よろづ相談所病院 内分泌内科)

「Using Psychological Methods to Improve Care of Diabetic Patients on Insulin」

Alan M. Jacobson

(Professor of Psychiatry, Harvard Medical School,
Senior Vice President, Joslin Diabetes Center)

※ランチョンセミナーには、日・英の同時通訳が入ります。

III. 一般演題

13:05~15:35

座長 津田 晶子 (木戸病院 内科)

1. 「CSII治療患者における無自覚低血糖」

田中 永昭 (大阪市立総合医療センター 総合内科)

2. 「Preprogrammable CSIIの導入により良好な血糖コントロールを得て分娩に至ったが、分娩中に子癇発作を認めた1型糖尿病の1例」

渡邊 昌樹 (埼玉医科大学 内分泌・糖尿病内科)

3. 「80才代で発症した1型糖尿病の2例

—離島の一般病院における高齢インスリン治療の現状をふまえて—」

古垣 齊拓 (南大島診療所 内科)

4. 「Preprogrammable pump によるCSII導入症例の検討」

斉藤 丈洋 (慈泉会 相澤病院 内分泌代謝科)

座長 丸山 太郎 (埼玉社会保険病院 内科)

5. 「2型糖尿病における超持続型インスリン (insulin glargine) の使用経験」

富澤磨須美 (富澤内科クリニック)

6. 「2型糖尿病の内服薬二次無効に対する

「持続型インスリン注射+ミカド3回毎食直前投与」による血糖制御の試み」

小野 吹美 (白石共立病院 中央検査部)

7. 「グラルギンおよびインスリンアスパルトを使用し、健常児を分娩した1型糖尿病の1例」

村井 一樹 (兵庫医科大学 内科学糖尿病科)

8. 「2型糖尿病患者においてグラルギンは有効か?」

工藤ひとみ (札幌厚生病院 第一内科)

9. 「基礎インスリンとして、インスリングルルギンの注射時刻、注射回数」の検討」

百木 忠久 (横浜市立大学 内分泌糖尿病内科)

座長 鴨井 久司 (長岡赤十字病院 糖尿病内分泌代謝センター)

10. 「速効型インスリンとインスリンスプロからインスリンアスパルトへの変更例におけるITSQ-JによるQOL評価」

田中みどり (長岡赤十字病院 糖尿病内分泌代謝センター)

11. 「ペン型インスリン注射用マイクロテーパード (ナノバス33™) の有用性の考察」

山内 恵史 (信州大学医学部附属病院 加齢総合診療科)

12. 「インスリン注射のタイミングを考えるアンケートを実施して」

井上 朱実 (耳原老松診療所 健康サポートセンター)

13. 「当院における看護師のインスリン注射に対する知識調査」

坪井 奈巳 (独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター 看護部 (CDE))

14. 「テーパード構造を有する新たな注射針ナノバス33の安全性および有用性の検討」

朝倉 俊成 (太田西ノ内病院 薬剤部)

座長 川村 智行 (大阪市立大学大学院 発達小児医学教室)

15. 「超速効型混合二相性インスリンアナログ製剤 一日2回投与と患者における昼食前 α -グルコシダーゼ阻害薬併用の臨床的意義」

田中 剛史 (独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター 内科)

16. 「健常者および超速効型インスリン製剤にて治療中の1型糖尿病患者における食後の糖脂質代謝」

石橋理恵子 (日本女子大学 栄養教育・臨床栄養学研究室)

17. 「乳児糖尿病におけるインスリン希釈投与による血糖管理」

松尾公美浩 (旭川医科大学 小児科)

18. 「インスリン抗体による不安定型1型糖尿病に対して免疫抑制療法が有効であった一例」

照井 健 (東札幌病院 内科)

19. 「当科1型糖尿病患者200名におけるインスリンアナログ導入効果」

川村 智行 (大阪市立大学大学院 発達小児医学教室)

15:35~15:50 休憩

IV. 特別講演

15:50~16:50

座長 小林 哲朗 (山梨大学医学部 第三内科)

「辟島移植の実際—日常臨床へのフィードバック—

山田祐一郎 (京都大学大学院医学研究科 糖尿病・栄養内科学講座)

16:50~16:55 閉会の辞

次回当番世話人